(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第4336413号
(P4336413)
(45)発行日　平成21年9月30日(2009.9.30)　(24)登録日　平成21年7月3日(2009.7.3)

(51)Int.Cl.　　F I
G06F 13/00 (2006.01)　　G06F 13/00　３５７Ａ
G06F 3/153 (2006.01)　　G06F 3/153　Ｌ

請求項の数 10　(全 30 頁)

(21)出願番号　特願平11-102069
(22)出願日　平成11年4月9日(1999.4.9)
(65)公開番号　特開2000-293462(P2000-293462A)
(43)公開日　平成12年10月20日(2000.10.20)
審査請求日　平成14年12月4日(2002.12.4)
審判番号　不服2005-15431(P2005-15431/J1)
審判請求日　平成17年8月11日(2005.8.11)

(73)特許権者　000001007
キヤノン株式会社
東京都大田区下丸子３丁目３０番２号
(74)代理人　100145827
弁理士　水垣　親房
(72)発明者　町田　晴生
東京都大田区下丸子３丁目３０番２号　キヤノン株式会社内

合議体
審判長　江嶋　清仁
審判官　圓道　浩史
審判官　清水　稔

(56)参考文献　特開平１０－２８３１４２（ＪＰ，Ａ）
最終頁に続く

(54)【発明の名称】表示処理方法およびデータ処理装置およびコンピュータが読み取り可能な記憶媒体

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
所定の通信媒体上に接続されたデータ処理装置との間でデータ通信可能なデータ処理装置における表示処理方法であって、
各データ処理装置との所定の通信媒体を介した通信により接続情報および使用状況情報を含む第１のデバイス情報を取得する取得工程と、
前記取得工程により取得された前記第１のデバイス情報を記憶手段に記憶管理する第１の管理工程と、
前記記憶手段に記憶された前記第１のデバイス情報に基づきシステム構成およびその使用状況を表示させる第１のシステム表示工程と、
前記第１のシステム表示工程により表示される各データ処理装置から、所望の複数のデータ処理装置をお気に入り候補として選択する選択工程と、
前記選択工程により選択された複数のデータ処理装置に対応する前記接続情報および当該複数のデータ処理装置の前記使用状況情報を含む第２のデバイス情報を前記記憶手段に記憶管理する第２の管理工程と、
前記第２の管理工程により記憶される前記第２のデバイス情報に基づいてシステム構成および前記複数のデータ処理装置の使用状況をお気に入り表示として表示させる第２のシステム表示工程と、
システム構成およびその使用状況を全体表示として表示させるための通常表示モードあるいはお気に入り表示として表示させるためのお気に入りモードのいずれかを指示する指

示工程と、
前記指示工程により指示されている表示モードに基づいて、前記第１のシステム表示工程と第２のシステム表示工程とを切り替えて実行させる切替え工程と、
を有することを特徴とする表示処理方法。
【請求項２】
所定の通信媒体上に接続されたデータ処理装置との間でデータ通信可能なデータ処理装置における表示処理方法であって、
各データ処理装置との通信により接続情報および使用状況情報を含む第１のデバイス情報を取得する取得工程と、
前記取得工程により取得された前記第１のデバイス情報を記憶手段に記憶管理する第１の管理工程と、
前記記憶手段に記憶された前記第１のデバイス情報に基づきシステム構成およびその使用状況を表示させる第１のシステム表示工程と、
前記第１のシステム表示工程により表示される各データ処理装置より所望の複数のデータ処理装置をお気に入り候補として選択する選択工程と、
前記選択工程により選択された複数のデータ処理装置に対応する前記接続情報および前記使用状況情報を含む第２のデバイス情報および第２のデバイス情報を表示すべき表示位置情報をデバイスマップ情報として前記記憶手段に記憶管理する第２の管理工程と、
前記第２の管理工程により記憶される前記デバイスマップに基づいてシステム構成および前記複数のデータ処理装置の使用状況を所定の位置にお気に入り表示させる第２のシステム表示工程と、
システム構成およびその使用状況を通常表示させるための通常表示モードあるいはお気に入り表示させるためのお気に入りモードのいずれかを指示する指示工程と、
前記指示工程により指示されている表示モードに基づいて前記第１と第２のシステム表示工程による表示を切り替える切替え工程と、
前記第２の管理工程に管理されている前記デバイスマップ情報を他のデータ処理装置に配信する配信工程と、
他のデータ処理装置からデバイスマップ情報が配信されたかどうかを判定する判定工程と、
前記判定工程により配信されたと判定した場合に、該配信された前記デバイスマップ情報を解析して前記第２の管理工程により管理されているデバイスマップ情報を更新する更新工程と、を有することを特徴とする表示処理方法。
【請求項３】
前記第１のシステム表示工程は、接続情報および前記使用状況情報に基づきシステム構成およびその使用状況を個別のアイコンで全体表示させ、前記第２のシステム表示工程は、第２の管理工程により記憶される前記接続情報および前記使用状況情報に基づいてシステム構成およびその使用状況をアイコンでお気に入り表示させることを特徴とする請求項１または２記載の表示処理方法。
【請求項４】
前記第２のシステム表示工程は、自機を示すアイコンと他のデータ処理装置，各種の周辺機器に対応するそれぞれのアイコンとを異なる形態で表示させることを特徴とする請求項１または２記載の表示処理方法。
【請求項５】
所定の通信媒体上に接続されたデータ処理装置との間でデータ通信可能なデータ処理装置における表示処理方法であって、
各データ処理装置との通信により属性データまたはステータス情報を含むデバイス情報を取得する取得工程と、
前記取得工程により取得された前記デバイス情報に基づき、各データ処理装置のアイコンを全体表示として表示する第１のシステム表示工程と、
前記第１のシステム表示工程によりアイコンが表示された各データ処理装置より所望の

複数のデータ処理装置をお気に入り候補としてユーザに選択させる選択工程と、
前記取得工程により取得された前記デバイス情報に基づき、前記選択工程により選択された複数のデータ処理装置のアイコン及び前記複数のデータ処理装置の使用状況をお気に入り表示として表示する第２のシステム表示工程と、
前記全体表示をさせるための通常表示モードあるいは前記お気に入り表示をさせるためのお気に入りモードのいずれかをユーザに指示させる指示工程と、
前記指示工程により指示された表示モードに基づいて、前記第１のシステム表示工程または第２のシステム表示工程を切り替えて実行させる切替え工程とを有することを特徴とする表示処理方法。
【請求項６】
前記選択工程により選択されたデータ処理装置の機器名称を示す名称データ、属性データ、ステータス情報、アイコンの表示位置情報をテーブルに登録する登録工程を有し、
前記第２のシステム表示工程では、前記テーブルに登録されている情報に基づいて、前記お気に入り表示をすることを特徴とする請求項５に記載の表示処理方法。
【請求項７】
所定の通信媒体上に接続されたデータ処理装置との間でデータ通信可能なデータ処理装置であって、
各データ処理装置との所定の通信媒体を介した通信により接続情報および使用状況情報を含む第１のデバイス情報を取得する取得手段と、
前記取得手段により取得された前記第１のデバイス情報を記憶手段に記憶管理する第１の管理手段と、
前記記憶手段に記憶された前記第１のデバイス情報に基づきシステム構成およびその使用状況を表示させる第１のシステム表示手段と、
前記第１のシステム表示手段により表示される各データ処理装置から、所望の複数のデータ処理装置をお気に入り候補として選択する選択手段と、
前記選択手段により選択された複数のデータ処理装置に対応する前記接続情報および当該複数のデータ処理装置の前記使用状況情報を含む第２のデバイス情報を前記記憶手段に記憶管理する第２の管理手段と、
前記第２の管理手段により記憶される前記第２のデバイス情報に基づいてシステム構成および前記複数のデータ処理装置の使用状況をお気に入り表示として表示させる第２のシステム表示手段と、
システム構成およびその使用状況を全体表示として表示させるための通常表示モードあるいはお気に入り表示として表示させるためのお気に入りモードのいずれかを指示する指示手段と、
前記指示手段により指示されている表示モードに基づいて、前記第１のシステム表示手段と第２のシステム表示手段とを切り替えて実行させる切替え手段と、
を有することを特徴とするデータ処理装置。
【請求項８】
所定の通信媒体上に接続されたデータ処理装置との間でデータ通信可能なデータ処理装置であって、
各データ処理装置との通信により接続情報および使用状況情報を含む第１のデバイス情報を取得する取得手段と、
前記取得手段により取得された前記第１のデバイス情報を記憶手段に記憶管理する第１の管理手段と、
前記記憶手段に記憶された前記第１のデバイス情報に基づきシステム構成およびその使用状況を表示させる第１のシステム表示手段と、
前記第１のシステム表示手段により表示される各データ処理装置より所望の複数のデータ処理装置をお気に入り候補として選択する選択手段と、
前記選択手段により選択された複数のデータ処理装置に対応する前記接続情報および前記使用状況情報を含む第２のデバイス情報および第２のデバイス情報を表示すべき表示位

置情報をデバイスマップ情報として前記記憶手段に記憶管理する第２の管理手段と、
前記第２の管理手段により記憶される前記デバイスマップに基づいてシステム構成および前記複数のデータ処理装置の使用状況を所定の位置にお気に入り表示させる第２のシステム表示手段と、
システム構成およびその使用状況を通常表示させるための通常表示モードあるいはお気に入り表示させるためのお気に入りモードのいずれかを指示する指示手段と、
前記指示手段により指示されている表示モードに基づいて前記第１と第２のシステム表示工程による表示を切り替える切替え手段と、
前記第２の管理手段に管理されている前記デバイスマップ情報を他のデータ処理装置に配信する配信手段と、
他のデータ処理装置からデバイスマップ情報が配信されたかどうかを判定する判定手段と、
前記判定手段により配信されたと判定した場合に、該配信された前記デバイスマップ情報を解析して前記第２の管理手段により管理されているデバイスマップ情報を更新する更新手段と、
を有することを特徴とするデータ処理装置。
【請求項９】
所定の通信媒体上に接続されたデータ処理装置との間でデータ通信可能なデータ処理装置であって、
各データ処理装置との通信により属性データまたはステータス情報を含むデバイス情報を取得する取得手段と、
前記取得手段により取得された前記デバイス情報に基づき、各データ処理装置のアイコンを全体表示として表示する第１のシステム表示手段と、
前記第１のシステム表示手段によりアイコンが表示された各データ処理装置より所望の複数のデータ処理装置をお気に入り候補としてユーザに選択させる選択手段と、
前記取得手段により取得された前記デバイス情報に基づき、前記選択手段により選択された複数のデータ処理装置のアイコン及び前記複数のデータ処理装置の使用状況をお気に入り表示として表示する第２のシステム表示手段と、
前記全体表示をさせるための通常表示モードあるいは前記お気に入り表示をさせるためのお気に入りモードのいずれかをユーザに指示させる指示手段と、
前記指示手段により指示された表示モードに基づいて、前記第１のシステム表示手段または第２のシステム表示手段を切り替えて実行させる切替え手段とを有することを特徴とするデータ処理装置。
【請求項１０】
請求項１～６のいずれかに記載の表示処理方法を実行させるためのプログラムを格納したことを特徴とするコンピュータが読み取り可能な記憶媒体。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、所定の通信媒体上に接続されたデータ処理装置との間でデータ通信可能なデータ処理装置における表示処理方法およびデータ処理装置およびコンピュータが読み取り可能な記憶媒体に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
近年、ネットワークシステム環境の下では、ＰＣおよびプリンタ、スキャナ、デジタルカメラなどの周辺機器の普及に伴い、画像データを読み込んで文書を電子化したり、またその文書を編集して印刷したりするニーズが非常に増えてきた。また更に、ＬＡＮなどのネットワークも普及してきており、ネットワーク上でプリンタ、モデム、画像読み取り装置を共有するニーズも増えてきた。プリンタ、スキャナなどの周辺機器装置をネットワークで共有することによって経費を抑えられると共に設置する場所も最小限に抑えることがで

きる。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】
しかし、ネットワーク上に非常に多くの周辺機器が接続されている場合などは必要な周辺機器が判りづらかったり、また、それらの周辺機器の接続情報などは周辺機器の種類毎に表示されるために、それらの接続状況をその都度調べたりしなければならないために操作が判りづらく、また非常に煩雑で、作業効率が悪かった。
【０００４】
更に、状態をチェックする場合にネットワーク上の全ての周辺機器の状態をチェックするためにネットワークに負荷をかけると共に処理時間がかかる場合があった。
【０００５】
本発明は、上記の問題点を解決するためになされたもので、本発明の目的は、ユーザは必要に応じてシステム構成を表示する際に、通常表示とお気に入り表示とを切替指示するという簡単な操作で、複数のデータ処理装置から取得した接続情報や使用状況情報等を登録してシステム構成を表示して、該表示されたシステム構成から選択されたデータ処理装置の使用状況情報等を自機のお気に入りシステムとして登録して、システム全体構成およびその動作状況あるいはユーザ各位が登録したお気に入りデバイス構成および動作状況を把握したいといういずれのシステム表示要求にも自在に即応して変化しているシステム環境を視覚的要素で判り易く提示することができ、システム環境の認識性を格段に向上できる仕組みを提供することである。
【０００６】
【課題を解決するための手段】
本発明に係る第１の発明は、所定の通信媒体上に接続されたデータ処理装置との間でデータ通信可能なデータ処理装置における表示処理方法であって、各データ処理装置との所定の通信媒体を介した通信により接続情報および使用状況情報を含む第１のデバイス情報を取得する取得工程と、前記取得工程により取得された前記第１のデバイス情報を記憶手段に記憶管理する第１の管理工程と、前記記憶手段に記憶された前記第１のデバイス情報に基づきシステム構成およびその使用状況を表示させる第１のシステム表示工程と、前記第１のシステム表示工程により表示される各データ処理装置から、所望の複数のデータ処理装置をお気に入り候補として選択する選択工程と、前記選択工程により選択された複数のデータ処理装置に対応する前記接続情報および当該複数のデータ処理装置の前記使用状況情報を含む第２のデバイス情報を前記記憶手段に記憶管理する第２の管理工程と、前記第２の管理工程により記憶される前記第２のデバイス情報に基づいてシステム構成および前記複数のデータ処理装置の使用状況をお気に入り表示として表示させる第２のシステム表示工程と、システム構成およびその使用状況を全体表示として表示させるための通常表示モードあるいはお気に入り表示として表示させるためのお気に入りモードのいずれかを指示する指示工程と、前記指示工程により指示されている表示モードに基づいて、前記第１のシステム表示工程と第２のシステム表示工程とを切り替えて実行させる切替え工程とを有することを特徴とする。
【０００７】
本発明に係る第２の発明は、所定の通信媒体上に接続されたデータ処理装置との間でデータ通信可能なデータ処理装置における表示処理方法であって、各データ処理装置との通信により接続情報および使用状況情報を含む第１のデバイス情報を取得する取得工程と、前記取得工程により取得された前記第１のデバイス情報を記憶手段に記憶管理する第１の管理工程と、前記記憶手段に記憶された前記第１のデバイス情報に基づきシステム構成およびその使用状況を表示させる第１のシステム表示工程と、前記第１のシステム表示工程により表示される各データ処理装置より所望の複数のデータ処理装置をお気に入り候補として選択する選択工程と、前記選択工程により選択された複数のデータ処理装置に対応する前記接続情報および前記使用状況情報を含む第２のデバイス情報および第２のデバイス情報を表示すべき表示位置情報をデバイスマップ情報として前記記憶手段に記憶管理する

第２の管理工程と、前記第２の管理工程により記憶される前記デバイスマップに基づいてシステム構成および前記複数のデータ処理装置の使用状況を所定の位置にお気に入り表示させる第２のシステム表示工程と、システム構成およびその使用状況を通常表示させるための通常表示モードあるいはお気に入り表示させるためのお気に入りモードのいずれかを指示する指示工程と、前記指示工程により指示されている表示モードに基づいて前記第１と第２のシステム表示工程による表示を切り替える切替え工程と、前記第２の管理工程に管理されている前記デバイスマップ情報を他のデータ処理装置に配信する配信工程と、他のデータ処理装置からデバイスマップ情報が配信されたかどうかを判定する判定工程と、前記判定工程により配信されたと判定した場合に、該配信された前記デバイスマップ情報を解析して前記第２の管理工程により管理されているデバイスマップ情報を更新する更新工程とを有することを特徴とする。

【０００８】

本発明に係る第３の発明は、前記第１のシステム表示工程は、接続情報および前記使用状況情報に基づきシステム構成およびその使用状況を個別のアイコンで全体表示させ、前記第２のシステム表示工程は、第２の管理工程により記憶される前記接続情報および前記使用状況情報に基づいてシステム構成およびその使用状況をアイコンでお気に入り表示させることを特徴とする。

【０００９】

本発明に係る第４の発明は、前記第２のシステム表示工程は、自機を示すアイコンと他のデータ処理装置，各種の周辺機器に対応するそれぞれのアイコンとを異なる形態で表示させることを特徴とする。

【００１０】

本発明に係る第５の発明は、所定の通信媒体上に接続されたデータ処理装置との間でデータ通信可能なデータ処理装置における表示処理方法であって、各データ処理装置との通信により属性データまたはステータス情報を含むデバイス情報を取得する取得工程と、前記取得工程により取得された前記デバイス情報に基づき、各データ処理装置のアイコンを全体表示として表示する第１のシステム表示工程と、前記第１のシステム表示工程によりアイコンが表示された各データ処理装置より所望の複数のデータ処理装置をお気に入り候補としてユーザに選択させる選択工程と、前記取得工程により取得された前記デバイス情報に基づき、前記選択工程により選択された複数のデータ処理装置のアイコン及び前記複数のデータ処理装置の使用状況をお気に入り表示として表示する第２のシステム表示工程と、前記全体表示をさせるための通常表示モードあるいは前記お気に入り表示をさせるためのお気に入りモードのいずれかをユーザに指示させる指示工程と、前記指示工程により指示された表示モードに基づいて、前記第１のシステム表示工程または第２のシステム表示工程を切り替えて実行させる切替え工程とを有することを特徴とする。

【００１１】

本発明に係る第６の発明は、前記選択工程により選択されたデータ処理装置の機器名称を示す名称データ、属性データ、ステータス情報、アイコンの表示位置情報をテーブルに登録する登録工程を有し、前記第２のシステム表示工程では、前記テーブルに登録されている情報に基づいて、前記お気に入り表示をすることを特徴とする。

【００１４】

本発明に係る第７の発明は、所定の通信媒体上に接続されたデータ処理装置との間でデータ通信可能なデータ処理装置であって、各データ処理装置との所定の通信媒体を介した通信により接続情報および使用状況情報を含む第１のデバイス情報を取得する取得手段と、前記取得手段により取得された前記第１のデバイス情報を記憶手段に記憶管理する第１の管理手段と、前記記憶手段に記憶された前記第１のデバイス情報に基づきシステム構成およびその使用状況を表示させる第１のシステム表示手段と、前記第１のシステム表示手段により表示される各データ処理装置から、所望の複数のデータ処理装置をお気に入り候補として選択する選択手段と、前記選択手段により選択された複数のデータ処理装置に対応する前記接続情報および当該複数のデータ処理装置の前記使用状況情報を含む第２のデ

バイス情報を前記記憶手段に記憶管理する第２の管理手段と、前記第２の管理手段により記憶される前記第２のデバイス情報に基づいてシステム構成および前記複数のデータ処理装置の使用状況をお気に入り表示として表示させる第２のシステム表示手段と、システム構成およびその使用状況を全体表示として表示させるための通常表示モードあるいはお気に入り表示として表示させるためのお気に入りモードのいずれかを指示する指示手段と、前記指示手段により指示されている表示モードに基づいて、前記第１のシステム表示手段と第２のシステム表示手段とを切り替えて実行させる切替え手段とを有することを特徴とする。

本発明に係る第８の発明は、所定の通信媒体上に接続されたデータ処理装置との間でデータ通信可能なデータ処理装置であって、各データ処理装置との通信により接続情報および使用状況情報を含む第１のデバイス情報を取得する取得手段と、前記取得手段により取得された前記第１のデバイス情報を記憶手段に記憶管理する第１の管理手段と、前記記憶手段に記憶された前記第１のデバイス情報に基づきシステム構成およびその使用状況を表示させる第１のシステム表示手段と、前記第１のシステム表示手段により表示される各データ処理装置より所望の複数のデータ処理装置をお気に入り候補として選択する選択手段と、前記選択手段により選択された複数のデータ処理装置に対応する前記接続情報および前記使用状況情報を含む第２のデバイス情報および第２のデバイス情報を表示すべき表示位置情報をデバイスマップ情報として前記記憶手段に記憶管理する第２の管理手段と、前記第２の管理手段により記憶される前記デバイスマップに基づいてシステム構成および前記複数のデータ処理装置の使用状況を所定の位置にお気に入り表示させる第２のシステム表示手段と、システム構成およびその使用状況を通常表示させるための通常表示モードあるいはお気に入り表示させるためのお気に入りモードのいずれかを指示する指示手段と、前記指示手段により指示されている表示モードに基づいて前記第１と第２のシステム表示工程による表示を切り替える切替え手段と、前記第２の管理手段に管理されている前記デバイスマップ情報を他のデータ処理装置に配信する配信手段と、他のデータ処理装置からデバイスマップ情報が配信されたかどうかを判定する判定手段と、前記判定手段により配信されたと判定した場合に、該配信された前記デバイスマップ情報を解析して前記第２の管理手段により管理されているデバイスマップ情報を更新する更新手段とを有することを特徴とする。

本発明に係る第９の発明は、所定の通信媒体上に接続されたデータ処理装置との間でデータ通信可能なデータ処理装置であって、各データ処理装置との通信により属性データまたはステータス情報を含むデバイス情報を取得する取得手段と、前記取得手段により取得された前記デバイス情報に基づき、各データ処理装置のアイコンを全体表示として表示する第１のシステム表示手段と、前記第１のシステム表示手段によりアイコンが表示された各データ処理装置より所望の複数のデータ処理装置をお気に入り候補としてユーザに選択させる選択手段と、前記取得手段により取得された前記デバイス情報に基づき、前記選択手段により選択された複数のデータ処理装置のアイコン及び前記複数のデータ処理装置の使用状況をお気に入り表示として表示する第２のシステム表示手段と、前記全体表示をさせるための通常表示モードあるいは前記お気に入り表示をさせるためのお気に入りモードのいずれかをユーザに指示させる指示手段と、前記指示手段により指示された表示モードに基づいて、前記第１のシステム表示手段または第２のシステム表示手段を切り替えて実行させる切替え手段とを有することを特徴とする。

本発明に係る第１０の発明は、第１～第６の発明の表示処理方法をコンピュータに実行させるためのプログラムをコンピュータが読み取り可能な記憶媒体に格納したことを特徴とする。

【００３６】

【発明の実施の形態】

〔第１実施形態〕

＜装置の説明＞

図１は、本発明に係るデータ処理装置を含むネットワーク機器のシステム構成を説明す

る図である。

【００３７】

図において、プリンタ１０２は開放型アーキテクチャを持つプリンタで、ネットワークボード（ＮＢ）１０１を介してネットワークに接続されている。ＮＢ１０１は、同軸コネクタをもつＥｔｈｅｒｎｅｔインタフェース１０Ｂａｓｅ－２や、ＲＪ－４５をもつ１０Ｂａｓｅ－Ｔなどのローカルエリアネットワークインタフェースを介して、ローカルエリアネットワーク（ＬＡＮ）１００，１２０，１３０に接続される。

【００３８】

ＰＣ１０３、ＰＣ１０４、ＰＣ１１１、ＰＣ１１２などの複数のパーソナルコンピュータ（ＰＣ）もＬＡＮ１００，１３０に接続されており、これらのＰＣは、ネットワークオペレーティングシステムの制御の下、ＮＢ１０１と通信することができる。

【００３９】

従って、ＰＣの１つを、例えばＰＣ１０３をネットワークデバイス管理用のＰＣとして使用することができる。また、ＰＣ１０４にプリンタ１０５をローカルプリンタとしてローカル接続してもよい。

【００４０】

また、ファイルサーバとして機能するＰＣ１０６がＬＡＮ１００に接続されており、大容量（例えば、１００億バイト）のネットワークディスク１０７に記憶されたファイルへのアクセスを処理する。

【００４１】

プリントサーバとして機能するＰＣ１０４は、ローカルに接続されたプリンタ１０５、または遠隔地にあるプリンタ１０２などのプリンタへの印刷を管理する。

【００４２】

同様に、スキャナサーバＰＣ１１５は、ローカル接続されたスキャナ１１７、または遠隔地にあるスキャナ１１０などのスキャナを管理する。スキャナ１１０は、ネットワークボード等を介してＬＡＮ１００に接続されている。また、複写機１１８は、イメージプロセッシングユニット１１９の管理制御の下に、プリンタやスキャナとしての機能を提供している。

【００４３】

図１に示すネットフークでは、様々なネットワークメンバ間で効率よく通信を行うために、ＮｏｖｅｌｌやＵＮＩＸなどのネットワークソフトウエアを使用することができる。例えば、Ｎｏｖｅｌｌ社のＮｅｔＷａｒｅ（Ｎｏｖｅｌｌ社の登録商標。以下、省略）ソフトウエアを使用することができる。このソフトウエアパッケージに関する詳細説明は、ＮｅｔＷａｒｅパッケージに同梱されているオンラインドキュメンテーション（Ｎｏｖｅｌｌ社からＮｅｔＷａｒｅパッケージに同梱される）に記載されているので説明は省略する。

【００４４】

ＰＣ１０３およびＰＣ１０４はそれぞれ、データファイルの生成、生成したデータファイルのＬＡＮ１００への送信、また、ＬＡＮ１００からのファイルの受信、さらに、それらのファイルの表示および／または処理を行うことができる一般的なＰＣである。

【００４５】

図１では、パーソナルコンピュータ機器（ＰＣ）が示されているが、ネットワークソフトウエアを実行するのに適した他のコンピュータ機器であってもよい。例えば、ＵＮＩＸのソフトウエアを使用している場合にはＵＮＩＸワークステーションをネットワークに接続してもよく、これらのワークステーションは図示されているＰＣと共に使用される。

【００４６】

通常、ＬＡＮ１００は、比較的ローカルなユーザグループに、例えば、１つの建物内の１つの階または連続した複数の階のユーザグループ等にサービスを提供する。

【００４７】

一方、ユーザが異なる建物や異なる県に居るなど、ユーザ同士が離れるに従って、ワイド

エリアネットワーク（ＷＡＮ）を構築してもよい。

【００４８】

基本的には、ＷＡＮは、いくつかのＬＡＮがサービス総合デジタルネットワーク（ＩＳＤＮ）などの高速度デジタル線で接続されることにより形成される、ＬＡＮの集合体である。例えば、図１に示すように、ＬＡＮ１００とＬＡＮ１２０とが、バックボーン１４０によって接続されることにより、ＷＡＮが形成される。ＬＡＮ１００、ＬＡＮ１２０、ＬＡＮ１３０にそれぞれ接続されている機器は、ＷＡＮ接続を介して他のＬＡＮに接続されている機器の機能にアクセスすることができる。

【００４９】

図２は、本発明の第１実施形態を示すクライアント構成を説明するブロック図であり、図示しない通信媒体、例えばイーサネット等のＬＡＮを介して所定の周辺機器（プリンタ，スキャナ，モデム，複合画像処理装置等を含む）がローカル接続された他のデータ処理装置と所定のプロトコルにより通信可能に構成されているものとする。

【００５０】

図において、１はシステムバスであり、これから説明する各部はこのシステムバス１に接続されている。２はＣＰＵ（Ｃｅｎｔｒａｌ　ＰｒｏｃｅｓｓｉｎｇＵｎｉｔ）である。

【００５１】

３はプログラムメモリ（ＰＭＥＭと称す）で、本処理のためのプログラムを適宜ハードディスク１０から選択／読込みし、ＣＰＵ２にて実行する。又、キーボード１２から入力されたデータはテキストメモリでもあるＰＭＥＭ３にコード情報として格納される。

【００５２】

４は通信制御部であり、通信ポート５に於ける入出力データの制御を行う。通信ポート５から出力された信号は、通信回線６を経由して、ネットワーク上の他の装置７の通信ポートに伝えられる。

【００５３】

ネットワーク上で共有されているプリンタや、画像読み取り装置（スキャナ）とのやり取りは、この通信制御部４を介して行われる。なお、本実施形態ではＬＡＮなどのネットワークに関して記述するが、この通信制御部４に接続される通信ポート及び通信回線が一般の公衆回線であっても本発明が適応されることは言うまでもない。

【００５４】

８は外部記憶装置制御部で、データファイル用のディスク、例えばフロッピーディスク（ＦＤと称す）９や、ハードディスク（ＨＤと称す）１０とのアクセスを制御する。

【００５５】

１１は入力制御部であり、キーボード１２、マウス等の入力装置１３が接続される。操作者はこのキーボード１２を操作することによりシステムの動作指令等を行う。１６はＣＲＴ装置（ＣＲＴ）で、ＣＲＴ１６上で画像情報を加工指示するためにはポインティングデバイス（ＰＤと称す）が使用され、本実施形態ではマウス１３を使用している。

【００５６】

これによりＣＲＴ１６上のカーソルをＸ，Ｙ方向に任意に移動してコマンドメニュー上のコマンドアイコンを選択して処理の指示を行なうほか編集対象の指示、描画位置の指示等も行う。

【００５７】

１４はビデオイメージメモリ（ＶＲＡＭと称す）で、ＣＲＴ１６に表示すべき描画データ（ビットマップデータ）が展開され、表示出力制御部１５を介して適宜読み出されてＣＲＴ１６にその内容が表示される。１７はプリンタ制御部であり、接続されているプリンタ１８に対するデータの出力制御を行う。

【００５８】

１Ａは画像読み取り機器制御部であり、接続されている画像読み取り機器１Ｂの画像読み取り制御を行う。なお、外部機器制御部１９は、プリンタ制御部１７または画像読み取り機器制御部１Ａを介して外部機器の動作を制御する。

【００５９】
なお、本発明に於ける画像読み取りサーバ装置には、上記画像読み取り機器制御部１Ａと画像読み取り機器１Ｂの構成要素が必須となるが、クライアント側装置では、前述のように、通信制御部４、及び通信ポート５を介してサーバ側の共有されている同構成要素を使用することができる。
【００６０】
更に、図２の構成は、画像読み取り機器と画像読み取り機器が物理的に別々のコンポーネントであっても、画像読み取り機器が、画像読み取り機器を含む１つのコンポーネントと同様な機能を有することとする。
【００６１】
なお、本実施形態でＲＯＭに記憶しているプログラムは、装置に直接接続されているハードディスク（ＨＤ）やフロッピーディスク（ＦＤ）などの記憶媒体にも記憶されていてもよい。さらに、ネットワークで接続されている他の装置上に記憶されていてもよい。また、本発明のプログラムは、ハードディスク（ＨＤ）やフロッピーディスク（ＦＤ）などの記憶媒体やネットワークを介してシステムや装置に供給できる。
【００６２】
図３は、図２に示したデータ処理装置のＣＲＴ１６に表示されるお気に入り表示の編集画面の一例を示す図であり、システム環境状態をビジュアル表示するためのアプリケーション動作中に表示されるお気に入り画面表示に対応する。
【００６３】
図において、３０１は編集画面で、メニュー、ツールバー３０１ａ～３０１ｃ、そしてＰＣおよび周辺機器を表わすアイコンが表示されているメインウインドウから構成されている。ただし、ツールバーは後述する図５などとは異なり、編集するためのアイコン（開く，保存，終了に対応するそれぞれのアイコン）が表示される。
【００６４】
３０２は「お気に入り表示」ウインドウで、お気に入り表示に登録されているＰＣおよび周辺機器が表示されている。
【００６５】
「お気に入り表示」ウインドウ３０２において、３０２ａ～３０２ｈはお気に入り表示に登録されているＰＣおよび周辺機器を示すアイコンである。これらのアイコンの表示方法については前述した通りである。
【００６６】
３０３は「通常表示」ウインドウで、ネットワーク上の全てのＰＣおよび周辺機器が表示されている。
【００６７】
「通常表示」ウインドウ３０３において、３０３ａ～３０３ｘはネットワーク上の全てのＰＣおよび周辺機器を表わすアイコンである。この例では、画面の都合上、全てのアイコンが表示されていないが、画面横に配置されているスクロールバーＳＢを使って全てのＰＣおよび周辺機器を確認することができる。また、アイコン３０３ｃ、３０３ｉ、３０３ｌのようにお気に入り表示にすでに登録されているＰＣおよび周辺機器はアイコンの表示形状が変わって表示され、登録を確認することができる。
【００６８】
図４は、図２に示したデータ処理装置に登録した情報を記憶するための構造体の一例を示す図である。
【００６９】
図において、４１はヘッダ部で、登録されているＰＣあるいは周辺機器のデータ数４１ａとコメント４１ｂより構成される。
【００７０】
４２はデータ部で、４２ａは登録されている機器名称を示す、例えばＸＸＸ１２３等の名称データ４２ａ，機器の種類などを表わすものであって、ＰＣ、プリンタ、スキャナ、Ｆ

ＡＸモデムなどを識別するための属性データ４２ｂ，「使用中」、「紙切れ」、「ドライバがインストールされていない」などの情報を含むステータス情報４２ｃ，登録された各機器の画面表示位置情報４２ｄ，コメント４２ｅ等より構成され、同様にしてデータ部４２にはデータ数４１ａに記憶されている登録数分だけデータ（上記４２ａ～４２ｅを１セットとするデータ）が記憶されている。

【００７１】

図５は、図２に示したデータ処理装置のＣＲＴ１６に表示される第１のお気に入り表示画面の一例を示す図であり、システム環境状態をビジュアル表示するためのアプリケーション動作中に表示されるお気に入り編集画面表示に対応する。

【００７２】

図において、５０１はアプリケーションの画面であり、この画面５０１にはメニュー、ツールバー、そしてＰＣおよび周辺機器を表わすアイコンが表示されているメインウインドウがある。５１ａ～５１ｊはそれぞれ機能を持ったツールバーである。

【００７３】

５０２ａは自機を表わすアイコンである。なお、それぞれのアイコンの形状はＰＣ、プリンタ、スキャナ、ＦＡＸモデムなどのデバイス種類によって変更される。また、自機は特別な機器であるために他のＰＣとは区別して表示される。なお、本実施形態では、アイコン５０２ａは、画面がスマイル表示されるものとするが、ユーザが他の機器と明確に識別可能なお気に入りのアイコンを割り付けられるように構成してもよい。

【００７４】

５０２ｂ～５０２ｈはそれぞれ登録されたＰＣあるいは周辺機器を表わすアイコンである。これらのアイコンに対して図２に示したマウス１３による操作、あるいはキーボード１２によるキー操作を行うことでさまざまな処理を行うことができる。

【００７５】

例えば、図５に示す画面５０１上のツールバー５１ｇを選択すると、ＣＲＴ１６の画面表示を通常表示（後述する図７に示す表示形態に対応する）に切り替えることができる。また、ツールバー５１ｈを選択するとお気に入り表示編集モードに切り替わる。

【００７６】

なお、本実施形態では、お気に入り表示時は、操作しやすいように円上に配置した画面表示を示している。アイコンの位置はマウス操作によってユーザが自由に変更することができる。

【００７７】

図６は、図２に示したデータ処理装置のＣＲＴ１６に表示される第２のお気に入り表示画面の一例を示す図であり、システム環境状態をビジュアル表示するためのアプリケーション動作中に表示されるお気に入り編集画面表示に対応する。なお、それぞれの機能は図５と同じであるが、プリンタ、スキャナ、ＦＡＸモデム、ＰＣなどのデバイス種類によって配置する位置をデバイス種類別に区別することによってユーザの操作性および視認性を向上させた画面表示例に対応する。

【００７８】

図７は、図２に示したデータ処理装置のＣＲＴ１６に表示される通常表示画面の一例を示す図であり、図３と同一のものには同一の符号を付してある。

【００７９】

図において、７１ａ～７１ｊはツールバーで、各ツールバー、アイコンの機能は図５と同じであるが、当該表示画面で、ツールバー７１ｇをマウス操作によりカーソル指示すると、表示画面が図５または図６に示したお気に入り表示画面に切り替わる。

【００８０】

図８は、図３に示したお気に入り編集画面上での登録／削除の指示を行うためのポップアップメニューの一例を示す図である。

【００８１】

図において、お気に入り表示ウインドウ上では「登録」アイテムが選択できないようにグ

レー表示され、通常表示ウインドウでは「削除」アイテムが選択できないようにグレー表示される。また、この操作方法でお気に入り表示に登録を行った場合は、アイコンはお気に入り表示ウインドウの左上に登録される。この位置にアイコンがすでに存在する場合は、その点に最も近い登録可能な位置に登録される。

【００８２】

図９は、本発明に係るデータ処理装置における第１のデータ処理手順の一例を示すフローチャートである。なお、Ｓ２０１～Ｓ２１１は各ステップを示す。

【００８３】

まず、ステップＳ２０１で、どのような表示方法をするかどうか判定、例えばＰＭＥＭ３上に記憶された表示方法設定データに従って判断する。なお、表示方法の種類として、本実施形態では、ネットワーク上の全てのＰＣあるいは周辺機器を表示する「通常表示」と、登録されたＰＣあるいは周辺機器のみを表示する「お気に入り表示」の２種類がある。

【００８４】

このため、ステップＳ２０１では、「お気に入り表示」が設定されているかどうかを判定して、「お気に入り表示」に設定されていると判定した場合は、ステップＳ２０２に進む。ここで、メモリ、例えばハードディスク１０等に記憶された登録情報を読み出し、それらの機器について接続状態、使用状況などの情報を取得する。

【００８５】

ここでは、ネットワーク上の全てのＰＣあるいは周辺機器に対して取得処理を行うのではなく、登録されているＰＣあるいは周辺機器に対してのみ行う。

【００８６】

次に、ステップＳ２０３で、それらの登録情報に基づいてＰＣおよび周辺機器を表わすアイコンをＣＲＴ１６の画面上に、例えば図５に示す形態あるいは図６に示す形態で表示する。

【００８７】

一方、ステップＳ２０１で、お気に入り表示設定でないと判定した場合は、通常表示設定であると判定して、ステップＳ２０４に進み、ネットワーク上の全てのＰＣおよび周辺機器の接続状態、使用状況などの情報を取得する。そして、ステップＳ２０５で、それらの取得した情報に基づいて、図７に示す形態で全てのＰＣおよび周辺機器を表わすアイコンをＣＲＴ１６に画面表示する。

【００８８】

次に、ステップＳ２０６で、ネットワーク上のＰＣおよび周辺機器がアイコンで表示された後でお気に入り表示を編集するかどうか判定する。お気に入り表示を編集するためには、メニューからアイテムを選択するか、図５に示したアイコン表示されているツールバー５１ｈを選択することによって行われる。ここで、お気に入り表示編集が指示されていないと判定した場合には、ステップＳ２１１へ進む。

【００８９】

一方、ステップＳ２０６で、お気に入り表示編集が指示されていると判定した場合には、ステップＳ２０７に進み、お気に入り表示に登録されているＰＣおよび周辺機器のデータを記憶データから読み出し、また、ネットワーク上の全てのＰＣおよび周辺機器の接続状態、使用状況などのデータも読み出して、図３に示したように同時に表示する。

【００９０】

次に、ステップＳ２０８で、お気に入り表示へのＰＣおよび周辺機器の登録操作を行う。

【００９１】

操作方法としては、図２に示したマウス１３による操作があり、本実施形態では、例えば通常表示ウインドウ３０３からお気に入り表示ウインドウ３０２に各アイコンをドラッグ＆ドロップすることで、マウス１３のクリックボタンを放した位置にアイコンを登録することができる。

【００９２】

また、逆に、お気に入り表示ウインドウから通常表示ウインドウにアイコンをドラッグ＆

ドロップすることで、お気に入り表示登録を削除することができる。また、このほかの操作として、それぞれのウインドウのアイコン上で、図８に示したポップアップメニューを表示させ、登録あるいは削除を行うことができる。

【００９３】

次に、ステップＳ２０９で、お気に入り表示編集が終了指示されたかどうか判定する。なお、お気に入り表示編集を終了する操作としては、メニューから終了アイテムを選択するか、ツールバーの終了アイコン３０１ｃを選択する。

【００９４】

ここで、終了指示がされていないと判定した場合は、ステップＳ２０８に戻って編集処理を続行する。

【００９５】

一方、ステップＳ２０９で、終了指示がされたと判定した場合は、ステップＳ２１０に進み、その時に編集されたお気に入り表示の登録情報をハードディスク１０，ＰＭＥＭ３等のメモリに保存する。

【００９６】

次に、ステップＳ２１１では、このアプリケーションに対して終了指示がなされたかどうか判定し、終了指示されていないと判定した場合は、ステップＳ２０１に戻り、終了指示されていると判定した場合は、アプリケーションに基づく処理を終了する。

【００９７】

上記第１実施形態によれば、ユーザが登録したＰＣおよび周辺機器のみを表示し、また、その設定を行うためにＰＣおよび周辺機器についてネットワーク上で共有されている全てを表示するウインドウとユーザが登録したもののみを表示するウインドウを同一画面に見やすく、そして判りやすく表示した編集画面を表示できるので、ネットワーク上の機器を効率よく利用できると共に、作業効率を良くすることができる。

【００９８】

〔第２実施形態〕

上記実施形態では、お気に入り編集画面上で、ユーザが意図するデバイスのアイコンをお気に入り領域に移動指示してお気に入りデバイスを登録し、該お気に入り登録されたデバイスのみの表示とシステム全体におけるデバイスの表示とを切替え制御する場合について説明したが、他のデータ処理装置から配信されるお気に入りデバイス情報と自機のお気に入りデバイス情報とを同一画面上に表示制御するように構成してもよい。以下、その実施形態について説明する。

【００９９】

図１０，図１１は、本発明の第２実施形態を示すデータ処理装置におけるお気に入り表示画面の一例を示す図であり、お気に入り表示アプリケーション動作中のお気に入り表示画面に対応する。

【０１００】

図１０において、３３０１はメインウインドウで、メニュー、ツールバー、そしてＰＣおよび周辺機器を表わすアイコンが表示される。

【０１０１】

３３１ａ～３３１ｊはそれぞれ機能を持ったツールバーである。３３０２ｆは自機を表わすアイコンであり、アイコンの形状はＰＣ、プリンタ、スキャナ、ＦＡＸモデムなどのデバイス種類によって変更される。また、自機は特別な機器であるために他のＰＣとは区別して表示される。

【０１０２】

なお、アイコン３３０２ｆ以外のアイコンはそれぞれ登録されたＰＣあるいは周辺機器を表わす。これらのアイコンに対してマウス操作、あるいはキー操作を行うことでさまざまな処理を行うことができる。

【０１０３】

例えば、ツールバー３３１ｇを選択すると、表示状態を「お気に入り表示」から「通常表

示」に切り替えることができる。
【０１０４】
また、ツールバー３３１ｈを選択するとお気に入り表示編集モードに切り替わる。さらに、アイコン３３０２ｋのスキャナをマウス１３でダブルクリック操作を行うと、そのスキャナからイメージデータを読み込むことができる。
【０１０５】
本実施形態では、サーバマシンが１台（アイコン３３０２ｄが対応する）、ＡさんからＦさんまでが各１台のＰＣを所有していて、それぞれプリンタ、スキャナなどを共有しているネットワーク環境において、Ａさんのマシン（アイコン３３０２ｆが対応する）で作成されたお気に入り表示で、更に実際の座席順に配置して作成した例を示している。
【０１０６】
図１１において、５５０１はメインウインドウで、メニュー、ツールバー、そしてＰＣおよび周辺機器を表わすアイコンが表示される。
【０１０７】
５５１ａ～５５１ｊはそれぞれ機能を持ったツールバーである。５５０２ｊは自機を表わすアイコンであり、また、自機は特別な機器であるために他のＰＣとは区別して表示される。５５０２ａ～５５０２ｎはアイコンで、アイコンの形状はＰＣ、プリンタ、スキャナ、ＦＡＸモデムなどのデバイス種類によって変更される。
【０１０８】
図１２は、図２に示したデータ処理装置におけるお気に入り表示設定データの構造体の一例を示す図である。
【０１０９】
図において、４４１はヘッダ部で、データを作成したマシン名４４１ａ，データ作成者４４１ｂ，データ作成日４４１ｃ，データ数４４１ｄ，コメント４４１ｅ等から構成される。なお、マシン名４４１ａとしては、ネットワーク上で一意に機器を決定できれば良いのでマシン名称でも良いし、また、ＴＣＰ／ＩＰプロトコルのＩＰアドレスでも良い。
【０１１０】
また、データ作成者４４１ｂは、そのマシンにログオンしている名称でも良いし、その他の任意の名称で良い。さらに、データ数４４１ｄには、登録されているＰＣあるいは周辺機器の数が設定されている。
【０１１１】
４４２はデータ部で、名称データ４４２ａ，属性データ４４２ｂ，デバイスＩＤ４４２ｃ，ステータス情報４４２ｄ，表示位置情報４４２ｅ，コメント４４２ｆから構成され、名称データ４４２ａには登録されている機器名称が記憶される。
【０１１２】
また、属性データ４４２ｂには、その機器の種類などを表わすものであって、ＰＣ、プリンタ、スキャナ、ＦＡＸモデムなどが記憶される。デバイスＩＤ４４２ｃには、その機器がＰＣである場合は、マシン名４４１ａと同じである。その他の機器の場合は、その機器が接続しているＰＣのマシン名が記憶される。
【０１１３】
さらに、ステータス情報４４２ｄには、「使用中」、「紙切れ」、「ドライバがインストールされていない」などの情報が記憶される。表示位置情報４４２ｅには、その機器を示すアイコンを表示すべき画面表示位置情報が記憶される。
【０１１４】
同様にして、データ部４４２には、データ数４４１ｄに記憶されている登録数１～Ｎ分データが記憶されている。
【０１１５】
図１３～図１５は、図２に示したデータ処理装置のＣＲＴ１６に表示されるメッセージウインドウの一例を示す図である。
【０１１６】

図１６は、本発明に係るデータ処理装置における第２のデータ処理手順の一例を示すフローチャートである。なお、Ｓ２２０１～Ｓ２２１１は各ステップを示す。また、ネットワーク上の全てのＰＣあるいは周辺機器を表示する「通常表示」と、登録されたＰＣあるいは周辺機器のみを表示する「お気に入り表示」の２種類とし、以下、「お気に入り表示」のための情報データのことを「お気に入り表示設定データ」と呼ぶ。

【０１１７】

また、まず、ステップＳ２２０１で、アプリケーションの立ち上げ時にお気に入り表示設定データが配信されているかどうか判定する。判定方法としては、決められたＰＭＥＭ３上の配信データ領域をチェックして配信されたかどうかを判定する方法や、決められたＰＭＥＭ３上のディレクトリに配信データがあるかないかを判定する方法などがある。

【０１１８】

ここで、お気に入り表示設定データが配信されていたと判定した場合は、メッセージが表示されて、配信された設定データを読み込むかどうかの指示をユーザに催促する、例えば図１３に示したメッセージ１３６０１を表示する。

【０１１９】

ここで、配信データがあってその設定に変更するを選択すると、ステップＳ２２０２へ進み、ここでお気に入り表示設定情報を解析する。例えば、図１０に示したＡさんのお気に入り表示設定がＤさんに配信された場合を説明する。

【０１２０】

配信されたお気に入り設定情報のヘッダ部の作成マシンは「Ａさんマシン」、作成者は「Ａさん」となっている。ここで、読み込んだマシンが、Ｄさん所有のＤさんマシンであることを自機の設定情報から取得して、配信されたお気に入り設定情報のヘッダー部の作成マシンを「Ｄさんマシン」、作成者を「Ｄさん」と修正する。

【０１２１】

そして、ステップＳ２２０３で、その修正したお気に入り表示設定データをマシンに設定する。

【０１２２】

一方、ステップＳ２２０１で、お気に入り表示設定データが配信されていない、または配信されていても設定しない場合はここまでの処理は行われない。

【０１２３】

次に、ステップＳ２２０４で、マシンに設定されているお気に入り表示設定に従って実際に各機器を表示する。この時、ネットワーク上のＰＣおよび周辺機器の接続状態とステータス情報を取得して、それらの情報に基づいて各機器のアイコン表示を適切なものにして表示する。

【０１２４】

先述した例では、表示画面は図１０から図１１に示す画面のようになる。図１０の画面との相違点は、アイコン５５０２ｅのスキャナが「Ａさんのカラースキャナ」に、アイコン５５０２ｆのＰＣが「Ａさんマシン」に、そして、アイコン５５０２ｋのスキャナが「カラースキャナ」、アイコン５５０２ｊのＰＣが「私のマシン」に変更される。

【０１２５】

アイコン５５０２ｋのスキャナとアイコン５５０２ｊのＰＣについてはお気に入り表示設定のデータ部に記憶されているデータはそれぞれ「Ｄさんのマシン」、「Ｄさんのカラースキャナ」であるが、デバイスＩＤがそれぞれ作成マシンと一致するので表示が変更される。

【０１２６】

そして、ステップＳ２２０５で、各種操作を行う。ここでは、例えば先述したようにスキャナを使って画像の読み込みを行ったり、ＦＡＸモデムを利用してＦＡＸ送信処理を行ったりする。

【０１２７】

次に、ステップＳ２２０６では、ユーザが他のＰＣからのお気に入り表示設定データの読

み込みを指示したかどうか判定する。読み込み指定操作としては、図１０に示したメニュー３３０１のアイテムから行う。ここで、読み込みの指示があったと判断した場合は、ステップＳ２２０７に進む。この際、お気に入り表示設定データをどのマシンから取得するか配信元を指示するウインドウ、例えば図１５に示すような配信元設定ウインドウ１５８０１がＰＣの表示装置に表示される。この配信元設定ウインドウ１５８０１で配信元のマシンを選択して実行を選択すると、そのマシンのお気に入り表示設定データを取得処理を実行する。実行中には、処理中であることを示すメッセージが、例えば図１４に示したようなウインドウ１４０１中に表示される。ここで、キャンセルを指示すると読み込み処理は中止される。

【０１２８】

このようにして、お気に入り表示設定データが取得されると、ステップＳ２２０８に進み、ステップＳ２２０２と同様の処理を行う。

【０１２９】

更に、ステップＳ２２０９，Ｓ２２１０では、ステップＳ２２０３、Ｓ２２０４と同様の処理を行い、変更されたお気に入り表示設定で画面表示される。

【０１３０】

一方、ステップＳ２２０６で読み込み指示がされなかったと判断した場合は、これらの処理は実行されずに、ステップＳ２２１１へ進み、本アプリケーションの終了指示がされたかどうか判定して、指示されていないと判定した場合はＳ２２０５に戻り、処理を続行し、終了指示があったと判断した場合は、アプリケーションに基づく処理を終了する。

【０１３１】

上記実施形態によれば、ユーザが登録したＰＣおよび周辺機器のみを表示し、また、その設定データをネットワーク上の他のＰＣから配信された、あるいは他のＰＣを指定して取得した場合に、そのデータを解析して自機のマシン構成にあった最適な設定に修正することによって、簡単にネットワーク上に共有されている機器をどのＰＣ上でも同じ設定環境で利用できるようになる。このことにより、無駄な設定作業や誤った機器を使用するなどの誤操作を防ぐことができ、作業効率を良くすることができる。

【０１３２】

〔第３実施形態〕

図１７は、本発明の第３実施形態を示すデータ処理装置におけるお気に入り編集表示画面の一例を示す図であり、お気に入り編集表示アプリケーション動作中のお気に入り表示画面表示に対応する。

【０１３３】

図１７において、４３０１はメインウインドウで、メニュー、ツールバー、そしてＰＣおよび周辺機器を表わすアイコンが表示される。

【０１３４】

４３０１ａ～４３０１ｄがツールバーで、特に、ツールバー４３０１ｄは配信処理を起動させる際に指示される。４３０２は「お気に入り表示」ウインドウで、お気に入り表示に登録されているＰＣおよび周辺機器が表示される。４３０２ａ～４３０２ｈはアイコンで、「お気に入り表示」に登録されているＰＣおよび周辺機器を示す。これらのアイコンの表示方法については前述した通りである。

【０１３５】

４３０３は「通常表示」ウインドウで、ネットワーク上の全てのＰＣおよび周辺機器が表示される。４３０３ａ～４３０３ｘはアイコンで、ネットワーク上の全てのＰＣおよび周辺機器を表わすある。この例では、画面の都合上、全てのアイコンが表示されていないが、画面横に配置されているスクロールバーを使って全てのＰＣおよび周辺機器を確認することができる。

【０１３６】

また、アイコン４３０３ｃ、４３０３ｉ、４３０３ｌのようにお気に入り表示に既に登録されているＰＣおよび周辺機器はアイコンの表示形状（表示形態）が変わって表示され、

登録を確認することができる。
【０１３７】
なお、当該表示画面でお気に入り表示の設定を編集することができ、例えばマウス１３の操作で通常表示ウインドウ４３０３からお気に入り表示ウインドウ４３０２に所望の各アイコンをドラッグ＆ドロップ操作を行い、マウス１３のクリックボタンを放した位置にドラッグしたアイコンを登録することができる。
【０１３８】
また、逆に、お気に入り表示ウインドウ４３０２から通常表示ウインドウ４３０３にアイコンをドラッグ＆ドロップ操作することで、お気に入り表示登録を削除することができる。
【０１３９】
図１８は、本発明の第３実施形態を示すデータ処理装置におけるお気に入り表示画面の一例を示す図であり、お気に入り表示アプリケーション動作中のお気に入り表示画面表示に対応する。
【０１４０】
図１８において、４５０１はメインウインドウで、メニュー、ツールバー、そしてＰＣおよび周辺機器を表わすアイコンが表示されている。４５１ａ～４５１ｊはそれぞれ機能を持ったツールバーである。
【０１４１】
４５０２ａは自機を表わすアイコンであり、該アイコン４５０２ａの形状はＰＣ、プリンタ、スキャナ、ＦＡＸモデムなどのデバイス種類によって変更される。また、自機は特別な機器であるために他のＰＣとは区別して表示される。
【０１４２】
４５０２ｂ～４５０２ｈはそれぞれ登録されたＰＣあるいは周辺機器を表わすアイコンである。これらのアイコン４５０２ｂ～４５０２ｈに対してマウス１３により操作、あるいはキーボード１２によりキー操作を行うことでさまざまな処理を行うことができる。
【０１４３】
例えば、ツールバー４５１ｇを、例えばカーソル指示により選択すると、表示を通常表示に切り替えることができる。また、ツールバー４５１ｈを、例えばカーソル指示により選択すると、お気に入り表示編集モードに切り替わる。本実施形態では、ネットワーク上で各ユーザが共通して使用する機器を画面表示した例を示している。なお、各アイコン４５０２ｂ～４５０２ｈの位置はマウス操作によってユーザが自由に変更することができる。
【０１４４】
図１９は、図２に示したデータ処理装置におけるお気に入り表示設定データの構造体の一例を示す図である。
【０１４５】
図において、４４４１はヘッダ部で、データ作成マシンデータを作成したマシン名４４４１ａ，データ作成者４４４１ｂ，データ作成日４４４１ｃ，データ数４４４１ｄ，コメント４４４１ｅ等から構成される。なお、マシン名４４４１ａとしては、ネットワーク上で一意に機器を決定できれば良いのでマシン名称でも良いし、また、ＴＣＰ／ＩＰプロトコルのＩＰアドレスでも良い。
【０１４６】
また、データ作成者４４４１ｂは、そのマシンにログオンしている名称でも良いし、その他の任意の名称でも良い。さらに、データ数４４４１ｄには、登録されているＰＣあるいは周辺機器の数が設定されている。
【０１４７】
４４４２はデータ部で、名称データ４４４２ａ，属性データ４４４２ｂ，ステータス情報４４４２ｃ，表示位置情報４４４２ｄ，コメント４４４２ｅから構成され、名称データ４４４２ａには登録されている機器名称が記憶される。
【０１４８】

また、属性データ４４４２ｂには、その機器の種類などを表わすものであって、ＰＣ、プリンタ、スキャナ、ＦＡＸモデムなどが記憶される。

【０１４９】

さらに、ステータス情報４４４２ｃには、「使用中」、「紙切れ」、「ドライバがインストールされていない」などの情報が記憶される。表示位置情報４４４２ｄには、その機器を示すアイコンを表示すべき画面表示位置情報が記憶される。

【０１５０】

同様にして、データ部４４４２には、データ数４４４１ｄに記憶されている登録数１～Ｎ分データが記憶されている。

【０１５１】

図２０，図２１は、図２に示したデータ処理装置のＣＲＴ１６に表示されるウインドウの一例を示す図であり、図２０は、設定変更を確認するメッセージウインドウ２０６０１に対応し、図２１は、配信先を決定する配信先一覧ウインドウ２１７０１に対応する。

【０１５２】

図２２は、本発明に係るデータ処理装置における第３のデータ処理手順の一例を示すフローチャートである。なお、Ｓ２３０１～Ｓ２３１０は各ステップを示す。

【０１５３】

また、本実施形態において、表示方法にはネットワーク上の全てのＰＣあるいは周辺機器を表示する「通常表示」と、登録されたＰＣあるいは周辺機器のみを表示する「お気に入り表示」の２種類があり、ネットワーク上のＰＣあるいは周辺機器の中で特定の装置のみを表示するための情報データのことを「お気に入り表示設定データ」と呼ぶ。

【０１５４】

まず、ステップＳ２３０１で、アプリケーションの立ち上げ時にお気に入り表示設定データが配信されているかどうか判定する。判定方法としては、決められたデータ領域をチェックして配信されたかどうかを判定する方法や決められたディレクトリに配信データがあるかないかを判定する方法などがある。

【０１５５】

ここで、お気に入り表示設定データが配信されていたと判定した場合は、例えば図２０に示すウインドウ２０６０１によりメッセージを表示して、配信された設定データを読み込むかどうかの指示を待ち、ウインドウ２０６０１中の「はい」、すなわち変更が指示されると、ステップＳ２３０２に進む。

【０１５６】

ここで、お気に入り表示設定が変更され、配信データに設定を変更しない場合は以前のお気に入り表示設定のままである。

【０１５７】

次に、ステップＳ２３０３で、設定されているお気に入り表示設定に従ってＰＣあるいは周辺機器の接続情報を取得する。そして、取得した情報を図２に示したＰＭＥＭ３等のメモリに記憶する。

【０１５８】

さらに、ステップＳ２３０４で、各機器に使用状況などの情報を取得して、それらの情報に基づいてＰＣおよび周辺機器を表わすアイコンなどの識別しやすい形式で画面上に、例えば図１８に示すように表示する。

【０１５９】

そして、ステップＳ２３０５で、ネットワーク上のＰＣおよび周辺機器がアイコンで表示された後で、お気に入り表示を編集するかどうか判定する。お気に入り表示を編集するためには、メニューからアイテムを選択するか、図１８に示したツールバー４５１ｈを選択することによって行われる。ここで、お気に入り表示編集が指示されたと判定した場合には、ステップＳ２３０６に進む。ここで、お気に入り表示に登録されているＰＣおよび周辺機器のデータをＰＭＥＭ３の記憶データから読み出し、また、ネットワーク上の全てのＰＣおよび周辺機器の接続状態、使用状況などのデータも読み出して同時に、例えば図１

７に示すように表示して、お気に入り表示の設定を編集可能な状態とする。
【０１６０】
次に、ステップＳ２３０７で、編集画面において現在設定されているお気に入り表示設定をネットワーク上の他のＰＣに配信するかどうか指示する。操作方法としては、図１７に示すメニュー４３０１中のアイテムを選択するか、アイコン４３０１ｄをマウス１３を操作して選択することで行う。
【０１６１】
ここで、お気に入り編集を行わないと判定した場合には、処理を終了し、お気に入り編集を行うと判定した場合、すなわち、お気に入り表示設定データを配信する場合は、ステップＳ２３０８に進む。
【０１６２】
この時に、どのＰＣに設定データを配信するか設定する、例えば図２１に示したウインドウ２１７０１がＰＣのＣＲＴ１６上に表示される。ユーザは配信するＰＣを選択して実行を指示することでお気に入り表示設定データを配信することができる。
【０１６３】
ここで、配信先が指定されてお気に入り表示設定データが指定されたＰＣに配信されると、同時に配信があったことを示すデータが書き込まれる。
【０１６４】
次に、ステップＳ２３０９で、お気に入り表示編集が終了指示されたかどうか判定する。お気に入り表示編集を終了する操作としては、メニュー４３０１から終了アイテムを選択するか、ツールバーの終了アイコン４３０１ａを選択する。ここで終了指示がされていないと判定した場合は、ステップＳ２３０７に戻って編集処理を続行する。
【０１６５】
一方、ステップＳ２３０９で、終了指示がされたと判定した場合は、ステップＳ２３１０に進み、その時に編集されたお気に入り表示の登録情報をメモリ（ハードディスク１０等）に保存して、アプリケーションに基づく処理を終了する。
【０１６６】
〔第４実施形態〕
上記第３実施形態では、アプリケーションの起動時にお気に入り表示設定データの配信があったかどうか判定しているが、ユーザが既にアプリケーションを実行させていて他のＰＣで設定されているお気に入り表示設定を取得する場合もあると考えられる。そこで、他のコンピュータからお気に入り表示設定データを読み込む手段と、配信元を決定する手段とを備えることによって対応できるように構成してもよい。以下、その実施形態について説明する。
【０１６７】
図２３は、本発明の第４実施形態を示すデータ処理装置における配信元設定ウインドウの一例を示す図であり、各ＰＣの表示装置、すなわち図２に示したＣＲＴ１６上に表示される。
【０１６８】
図において、２３９０１は配信元設定ウインドウで、他のＰＣのお気に入り表示設定データを取得指示された際に表示される。
【０１６９】
図２４は、本発明に係るデータ処理装置における第４のデータ処理手順の一例を示すフローチャートである。なお、Ｓ２８０１～Ｓ２８１２は各ステップを示す。
【０１７０】
また、本実施形態において、表示方法にはネットワーク上の全てのＰＣあるいは周辺機器を表示する「通常表示」と、登録されたＰＣあるいは周辺機器のみを表示する「お気に入り表示」の２種類があり、ネットワーク上のＰＣあるいは周辺機器の中で特定の装置のみを表示するための情報データのことを「お気に入り表示設定データ」と呼ぶ。
【０１７１】

まず、ステップＳ２８０１で、アプリケーションの立ち上げ時にお気に入り表示設定データが配信されているかどうか判定する。判定方法としては、決められたデータ領域をチェックして配信されたかどうかを判定する方法や決められたディレクトリに配信データがあるかないかを判定する方法などがある。

【０１７２】

ここで、お気に入り表示設定データが配信されていたと判定した場合は、例えば図２０に示すウインドウ２０６０１によりメッセージを表示して、配信された設定データを読み込むかどうかの指示を待ち、ウインドウ２０６０１中の「はい」、すなわち変更が指示されると、ステップＳ２８０２に進む。

【０１７３】

ここで、お気に入り表示設定が変更され、配信データに設定を変更しない場合は以前のお気に入り表示設定のままである。

【０１７４】

次に、ステップＳ２８０３で、設定されているお気に入り表示設定に従ってＰＣあるいは周辺機器の接続情報を取得する。そして、取得した情報を図２に示したＰＭＥＭ３等のメモリに記憶する。

【０１７５】

さらに、ステップＳ２８０４で、各機器に使用状況などの情報を取得して、それらの情報に基づいてＰＣおよび周辺機器を表わすアイコンなどの識別しやすい形式で画面上に、例えば図１８に示すように表示する。

【０１７６】

そして、ステップＳ２８０５で、ネットワーク上のＰＣおよび周辺機器がアイコンで表示された後で、お気に入り表示を編集するかどうか判定する。お気に入り表示を編集するためには、メニューからアイテムを選択するか、図１８に示したツールバー４５１ｈを選択することによって行われる。ここで、お気に入り表示編集が指示されたと判定した場合には、ステップＳ２８０６に進む。ここで、お気に入り表示に登録されているＰＣおよび周辺機器のデータをＰＭＥＭ３の記憶データから読み出し、また、ネットワーク上の全てのＰＣおよび周辺機器の接続状態、使用状況などのデータも読み出して同時に、例えば図１７に示すように表示して、お気に入り表示の設定を編集可能な状態とする。

【０１７７】

次に、ステップＳ２８０７で、編集画面において現在設定されているお気に入り表示設定をネットワーク上の他のＰＣに配信するかどうか指示する。操作方法としては、図１７に示すメニュー４３０１中のアイテムを選択するか、アイコン４３０１ｄをマウス１３を操作して選択することで行う。

【０１７８】

ここで、お気に入り編集を行わないと判定した場合には、処理を終了し、お気に入り編集を行うと判定した場合、すなわち、お気に入り表示設定データを配信する場合は、ステップＳ２８０８に進む。

【０１７９】

この時に、どのＰＣに設定データを配信するか設定する、例えば図２１に示したウインドウ２１７０１がＰＣのＣＲＴ１６上に表示される。ユーザは配信するＰＣを選択して実行を指示することでお気に入り表示設定データを配信することができる。

【０１８０】

ここで、配信先が指定されてお気に入り表示設定データが指定されたＰＣに配信されると、同時に配信があったことを示すデータが書き込まれる。

【０１８１】

次に、ステップＳ２８０９で、他のＰＣのお気に入り表示設定データを取得する指示がされたかどうか判定する。指示する操作方法としては、図１７に示したメニュー４３０１のアイテムを選択するなどがある。ここで取得する指示がされた場合は、ステップＳ２８１０に進む。ここで、どのＰＣからお気に入り表示設定データを取得するか選択するウイン

ドウ、例えば図２３に示す配信元設定ウインドウ２３９０１を表示するる。ユーザは配信元のＰＣを選択して実行することでお気に入り表示設定を変更できる。

【０１８２】

次に、ステップＳ２８１１で、お気に入り表示編集が終了指示されたかどうか判定する。お気に入り表示編集を終了する操作としては、メニュー４３０１から終了アイテムを選択するか、ツールバーの終了アイコン４３０１ａを選択する。ここで終了指示がされていないと判定した場合は、ステップＳ２８０７に戻って編集処理を続行する。

【０１８３】

一方、ステップＳ２８１１で、終了指示がされたと判定した場合は、ステップＳ２８１２に進み、その時に編集されたお気に入り表示の登録情報をメモリ（ハードディスク１０等）に保存して、アプリケーションに基づく処理を終了する。

【０１８４】

上記第３，第４実施形態によれば、ユーザが登録したＰＣおよび周辺機器のみを表示し、また、その設定データをネットワーク上の他のＰＣから配信された、あるいは他のＰＣを指定して取得した場合に、そのデータを解析して自機のマシン構成にあった最適な設定に修正するので、簡単にネットワーク上に共有されている機器をどのＰＣ上でも同じ設定環境で利用できるようになる。このことにより、無駄な設定作業や誤った機器を使用するなどの誤操作を防ぐことができ、作業効率を良くすることができる。

【０１８５】

以下、図２５に示すメモリマップを参照して本発明に係るデータ処理装置で読み出し可能なデータ処理プログラムの構成について説明する。

【０１８６】

図２５は、本発明に係るデータ処理装置で読み出し可能な各種データ処理プログラムを格納する記憶媒体のメモリマップを説明する図である。

【０１８７】

なお、特に図示しないが、記憶媒体に記憶されるプログラム群を管理する情報、例えばバージョン情報，作成者等も記憶され、かつ、プログラム読み出し側のＯＳ等に依存する情報、例えばプログラムを識別表示するアイコン等も記憶される場合もある。

【０１８８】

さらに、各種プログラムに従属するデータも上記ディレクトリに管理されている。また、各種プログラムをコンピュータにインストールするためのプログラムや、インストールするプログラムが圧縮されている場合に、解凍するプログラム等も記憶される場合もある。

【０１８９】

本実施形態における図９，図１６，図２２，図２４に示す機能が外部からインストールされるプログラムによって、ホストコンピュータにより遂行されていてもよい。そして、その場合、ＣＤ－ＲＯＭやフラッシュメモリやＦＤ等の記憶媒体により、あるいはネットワークを介して外部の記憶媒体から、プログラムを含む情報群を出力装置に供給される場合でも本発明は適用されるものである。

【０１９０】

以上のように、前述した実施形態の機能を実現するソフトウエアのプログラムコードを記録した記憶媒体を、システムあるいは装置に供給し、そのシステムあるいは装置のコンピュータ（またはＣＰＵやＭＰＵ）が記憶媒体に格納されたプログラムコードを読出し実行することによっても、本発明の目的が達成されることは言うまでもない。

【０１９１】

この場合、記憶媒体から読み出されたプログラムコード自体が本発明の新規な機能を実現することになり、そのプログラムコードを記憶した記憶媒体は本発明を構成することになる。

【０１９２】

プログラムコードを供給するための記憶媒体としては、例えば、フロッピーディスク，ハードディスク，光ディスク，光磁気ディスク，ＣＤ－ＲＯＭ，ＣＤ－Ｒ，磁気テープ，不

揮発性のメモリカード，ＲＯＭ，ＥＥＰＲＯＭ等を用いることができる。

【０１９３】

また、コンピュータが読み出したプログラムコードを実行することにより、前述した実施形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードの指示に基づき、コンピュータ上で稼働しているＯＳ（オペレーティングシステム）等が実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【０１９４】

さらに、記憶媒体から読み出されたプログラムコードが、コンピュータに挿入された機能拡張ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに書き込まれた後、そのプログラムコードの指示に基づき、その機能拡張ボードや機能拡張ユニットに備わるＣＰＵ等が実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【０１９５】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、ユーザは必要に応じてシステム構成を表示する際に、通常表示とお気に入り表示とを切替指示するという簡単な操作で、複数のデータ処理装置から取得した接続情報や使用状況情報等を登録してシステム構成を表示して、該表示されたシステム構成から選択されたデータ処理装置の使用状況情報等を自機のお気に入りシステムとして登録して、システム全体構成およびその動作状況あるいはユーザ各位が登録したお気に入りデバイス構成および動作状況を把握したいといういずれのシステム表示要求にも自在に即応して変化しているシステム環境を視覚的要素で判り易く提示することができ、システム環境の認識性を格段に向上できる。

【０１９６】

また、システム環境の視認性向上に伴い、接続され各周辺機器や他のデータ処理装置を効率よく利用でき、システム環境全体やお気に入りのシステム環境を利用する各種のデータ処理作業を効率的に行うことができる。

【０１９７】

さらに、他のデータ処理装置で管理されているお気に入り情報を取得して自機のお気に入り表示画面上に取り込んで各ユーザ別のお気に入りシステム環境も認識することができるため、他のデータ処理装置のユーザが他のデータ処理装置に移動してデータ処理を行いシステム機器を利用する場合に、自機の操作環境と同一の操作で意図するデバイスを操作できる。

【０１９８】

また、他のデータ処理装置でカスタマイズされた各ユーザ毎のシステム環境を他のデータ処理装置に反映でき、同一の環境をお気に入り表示する際に必要とされるデバイス登録作業を大幅に軽減でき、お気に入り環境を簡単な操作で自在に操ることができる等の効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明に係るデータ処理装置を含むネットワーク機器のシステム構成を説明する図である。

【図２】本発明の第１実施形態を示すデータ処理装置の構成を説明するブロック図である。

【図３】図２に示したデータ処理装置のＣＲＴに表示されるお気に入り表示の編集画面の一例を示す図である。

【図４】図２に示したデータ処理装置に登録した情報を記憶するための構造体の一例を示す図である。

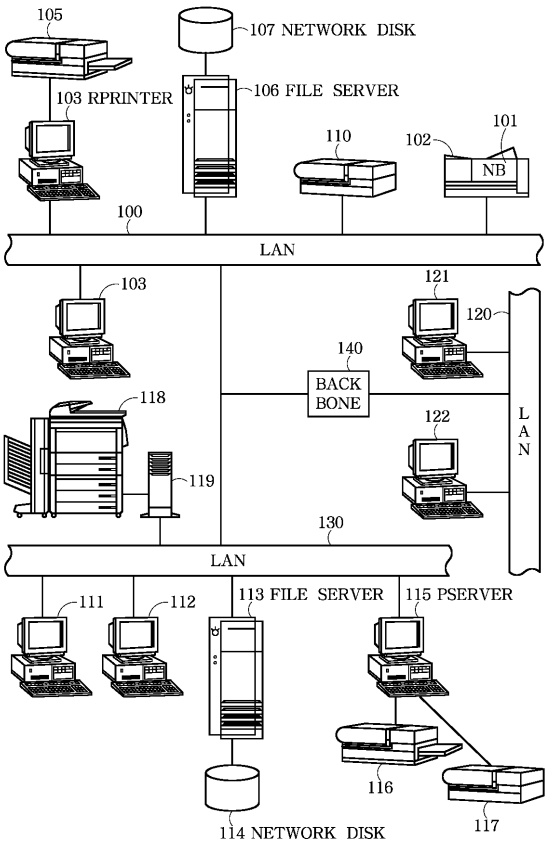
【図５】図２に示したデータ処理装置のＣＲＴに表示される第１のお気に入り表示画面の一例を示す図である。

【図６】図２に示したデータ処理装置のＣＲＴに表示される第２のお気に入り表示画面の

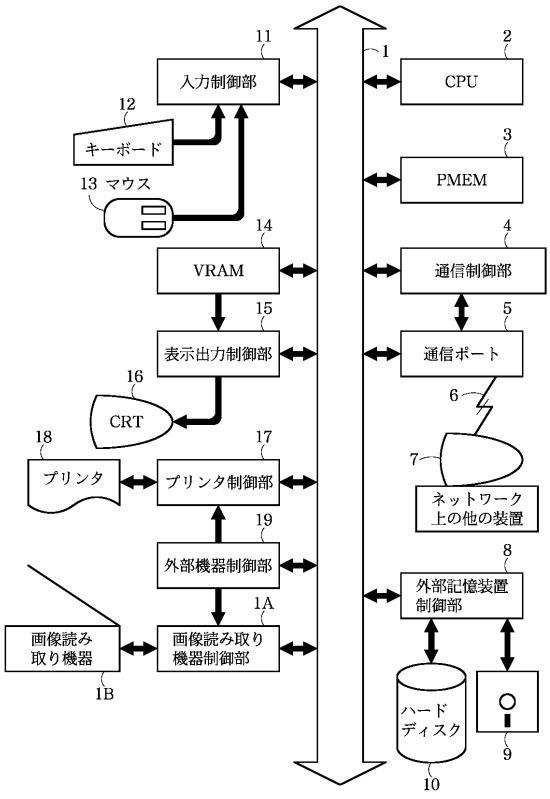
一例を示す図である。
【図７】図２に示したデータ処理装置のＣＲＴに表示される通常表示画面の一例を示す図である。
【図８】図３に示したお気に入り編集画面上での登録／削除の指示を行うためのポップアップメニューの一例を示す図である。
【図９】本発明に係るデータ処理装置における第１のデータ処理手順の一例を示すフローチャートである。
【図１０】本発明の第２実施形態を示すデータ処理装置におけるお気に入り表示画面の一例を示す図である。
【図１１】本発明の第２実施形態を示すデータ処理装置におけるお気に入り表示画面の一例を示す図である。
【図１２】図２に示したデータ処理装置におけるお気に入り表示設定データの構造体の一例を示す図である。
【図１３】図２に示したデータ処理装置のＣＲＴに表示されるメッセージウインドウの一例を示す図である。
【図１４】図２に示したデータ処理装置のＣＲＴに表示されるメッセージウインドウの一例を示す図である。
【図１５】図２に示したデータ処理装置のＣＲＴに表示されるメッセージウインドウの一例を示す図である。
【図１６】本発明に係るデータ処理装置における第２のデータ処理手順の一例を示すフローチャートである。
【図１７】本発明の第３実施形態を示すデータ処理装置におけるお気に入り編集表示画面の一例を示す図である。
【図１８】本発明の第３実施形態を示すデータ処理装置におけるお気に入り表示画面の一例を示す図である。
【図１９】図２に示したデータ処理装置におけるお気に入り表示設定データの構造体の一例を示す図である。
【図２０】図２に示したデータ処理装置のＣＲＴに表示されるウインドウの一例を示す図である。
【図２１】図２に示したデータ処理装置のＣＲＴに表示されるウインドウの一例を示す図である。
【図２２】本発明に係るデータ処理装置における第３のデータ処理手順の一例を示すフローチャートである。
【図２３】本発明の第４実施形態を示すデータ処理装置における配信元設定ウインドウの一例を示す図である。
【図２４】本発明に係るデータ処理装置における第４のデータ処理手順の一例を示すフローチャートである。
【図２５】本発明に係るデータ処理装置で読み出し可能な各種データ処理プログラムを格納する記憶媒体のメモリマップを説明する図である。
【符号の説明】
１　システムバス
２　ＣＰＵ
３　プログラムメモリ
４　通制御部
５　通信ポート
６　通信回線
７　ネットワーク上の他の装置
８　外部記憶装置制御部
９　フロッピーディスク
１０　ハードディスク

１１　入力制御部
１２　キーボード
１３　マウス
１４　ディスプレイメモリ
１５　表示出力制御部
１６　ＣＲＴ
１７　プリンタ制御部
１８　プリンタ
１９　外部機器制御部
１Ａ　画像読み取り装置制御部
１Ｂ　画像読み取り機器

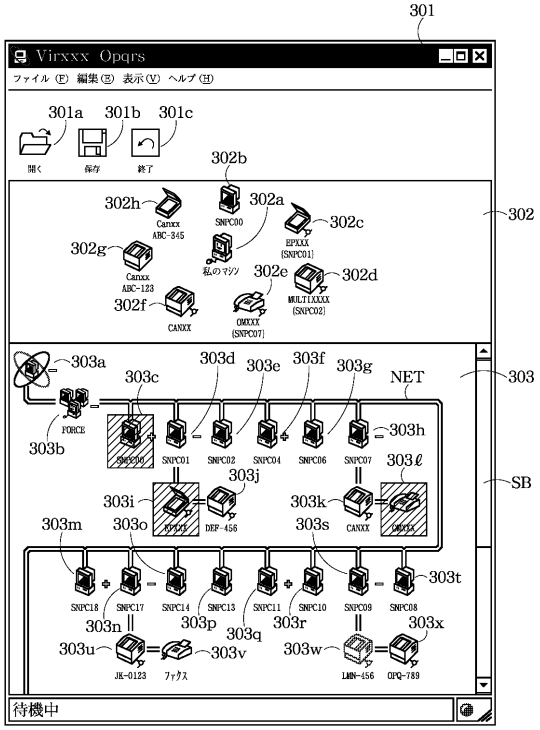
【図１】



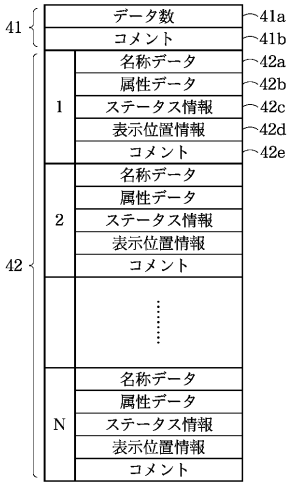
【図２】



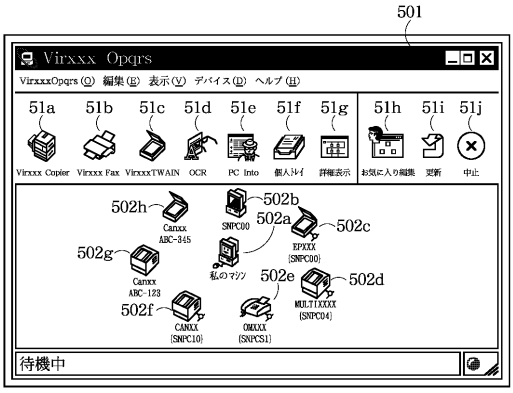
【図３】


301
Virxxx Opqrs
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ヘルプ(H)
301a
301b
301c
開く
保存
終了
302b
302h
302a
302c
302g
302e
302d
302f
302
303a
303d
303e
303f
303g
NET
303c
303
303b
303h
303j
303i
303k
303ℓ
SB
303m
303o
303s
303t
303n
303p
303q
303r
303x
303u
303v
303w
待機中

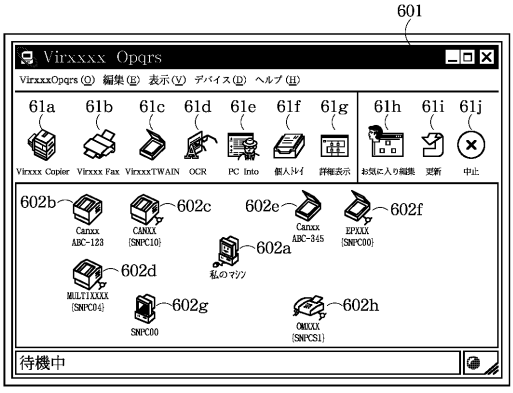
【図４】


41
データ数
41a
コメント
41b
1
名称データ
42a
属性データ
42b
ステータス情報
42c
表示位置情報
42d
コメント
42e
2
名称データ
属性データ
ステータス情報
表示位置情報
コメント
42
N
名称データ
属性データ
ステータス情報
表示位置情報
コメント

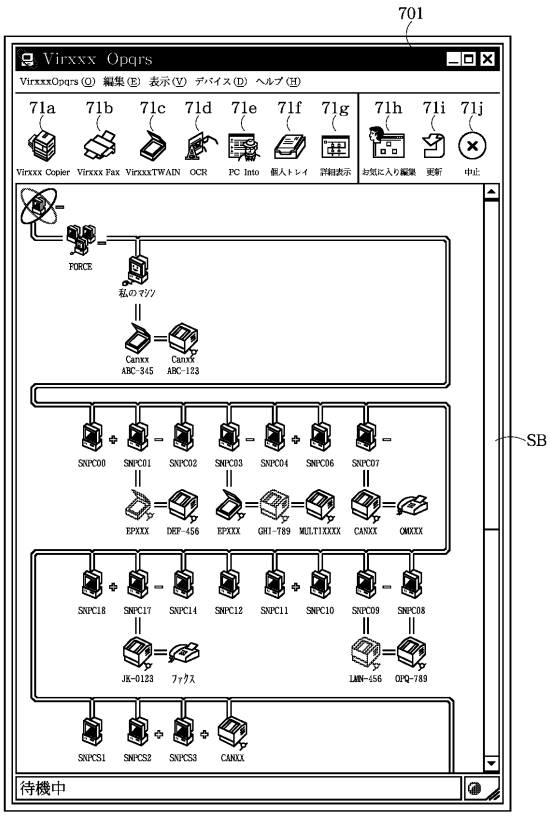
【図５】


501
Virxxx Opqrs
VirxxxOpqrs(O) 編集(E) 表示(V) デバイス(D) ヘルプ(H)
51a
51b
51c
51d
51e
51f
51g
51h
51i
51j
Virxxx Copier
Virxxx Fax
VirxxxTWAIN
OCR
PC Into
個人トレイ
詳細表示
お気に入り編集
更新
中止
502h
502b
502a
502c
502g
502e
502d
502f
待機中

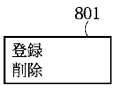
【図６】


601
Virxxx Opqrs
VirxxxOpqrs(O) 編集(E) 表示(V) デバイス(D) ヘルプ(H)
61a
61b
61c
61d
61e
61f
61g
61h
61i
61j
Virxxx Copier
Virxxx Fax
VirxxxTWAIN
OCR
PC Into
個人トレイ
詳細表示
お気に入り編集
更新
中止
602b
602c
602e
602f
602a
602d
602g
602h
待機中

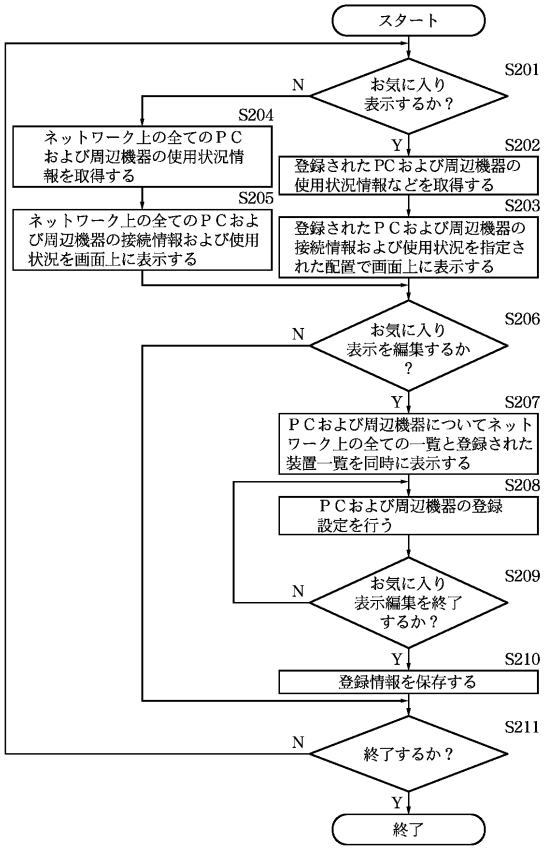
【図７】


701
Virxxx Opqrs
VirxxxOpqrs(O) 編集(E) 表示(V) デバイス(D) ヘルプ(H)
71a
71b
71c
71d
71e
71f
71g
71h
71i
71j
Virxxx Copier
Virxxx Fax
VirxxxTWAIN
OCR
PC Into
個人トレイ
詳細表示
お気に入り編集
更新
中止
FORCE
私のマシン
SB
待機中

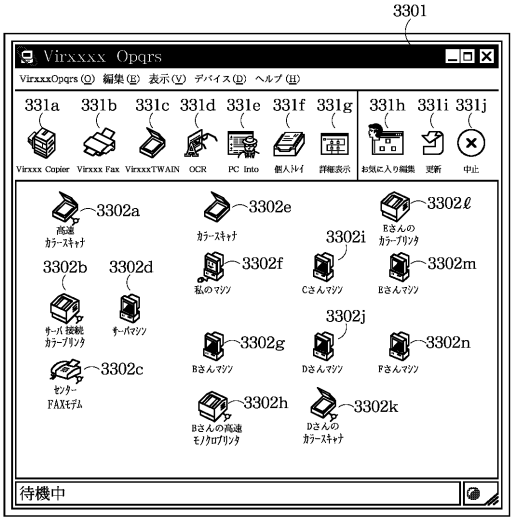
【図８】



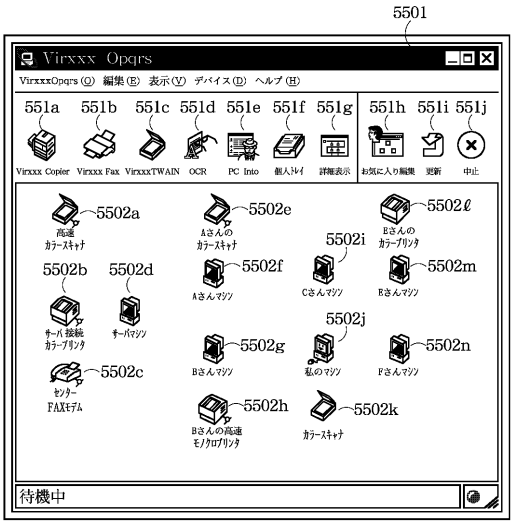
【図９】



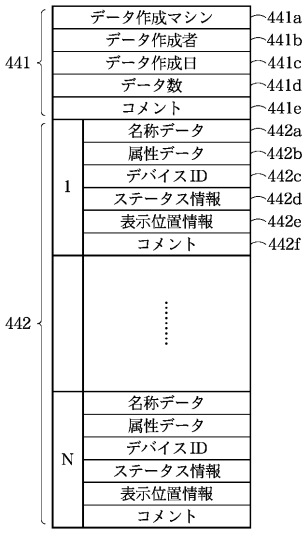
【図１０】



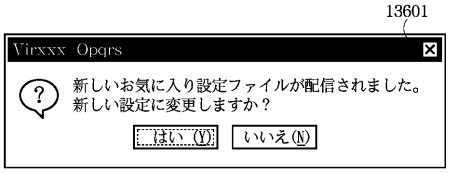
【図１１】



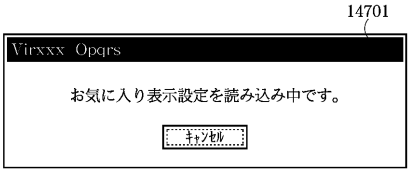
【図１２】



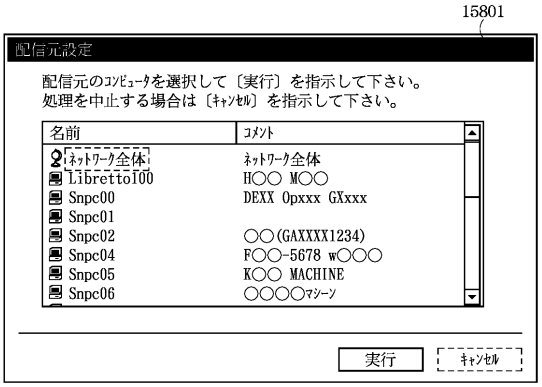
【図１３】



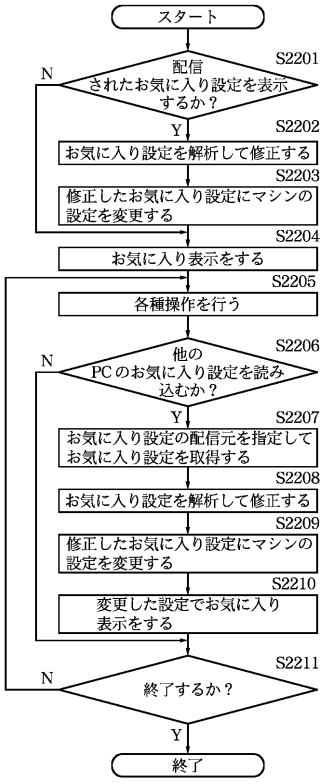
【図１４】



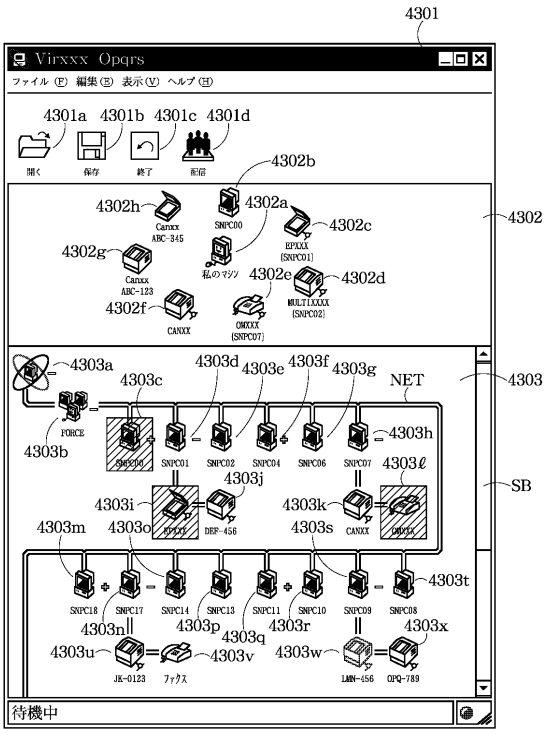
【図１５】



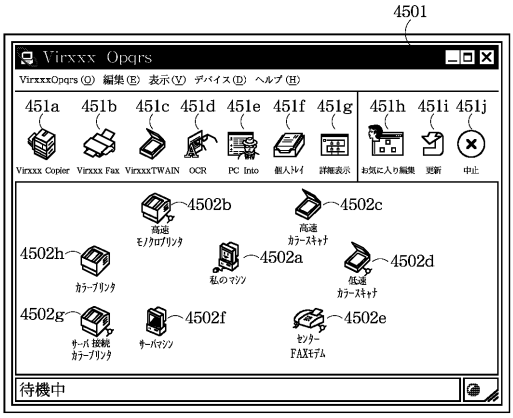
【図１６】



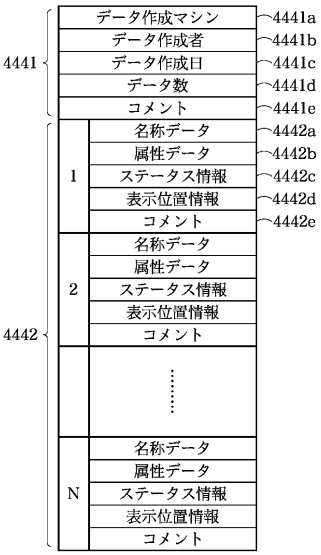
【図１７】



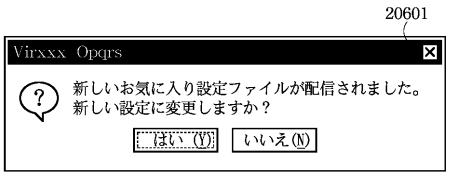
【図１８】



【図１９】



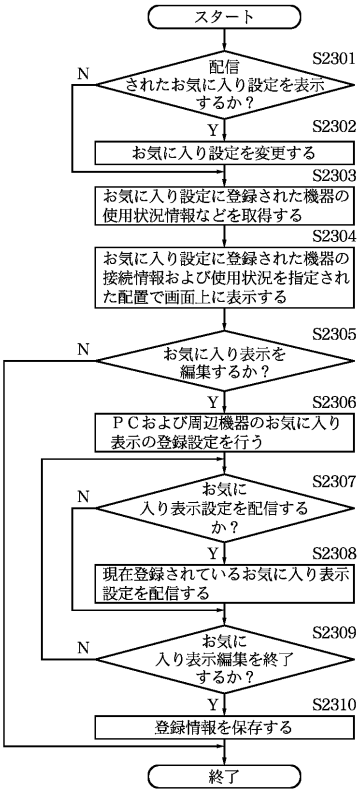
【図２０】



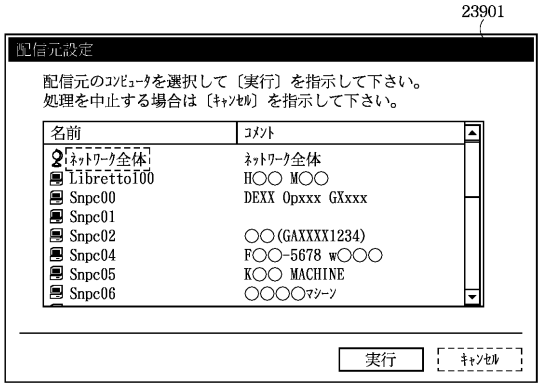
【図２１】



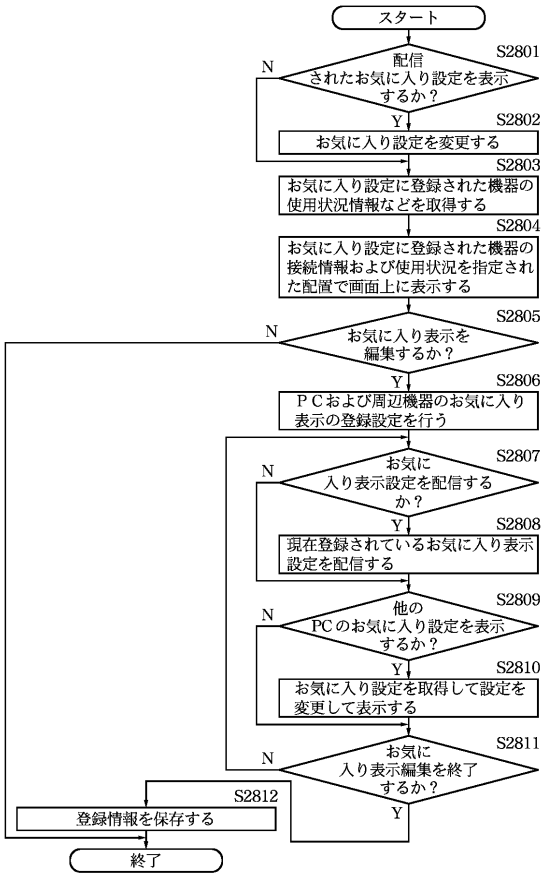
【図２２】



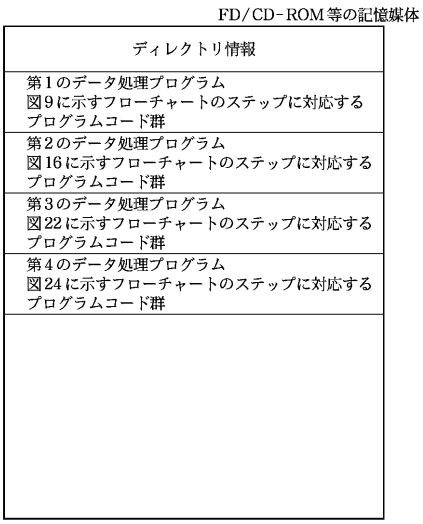
【図２３】



【図２４】



【図２５】



記憶媒体のメモリマップ

フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., ＤＢ名)
G06F13/00
G06F3/14-G06F3/153